



落二中だより

令和4年2月24日

第10号

新宿区立落合第二中学校

試練が育む心の成長

本年度もあと一か月を残すばかりとなりました。光陰矢の如しとは言いますが、本当に早く月日が過ぎていったように感じます。その原因の一つは、間違いなく、様々な行事が中止、縮小されてしまったことでしょう。感染の猛威がなかなか衰えを見せず、そのため東京都、京都府、長野県等のまん延防止等重点措置が延長され、生徒たちが楽しみにしていた修学旅行とスキー教室がともに中止となってしまいました。仲間とのきずなを深め、良き思い出となるであろうこの大きな行事の中止は、生徒たちばかりでなく我々教員も誠に残念でなりません。我慢ばかりお願いしている生徒たちには、本当に申し訳ない思いです。

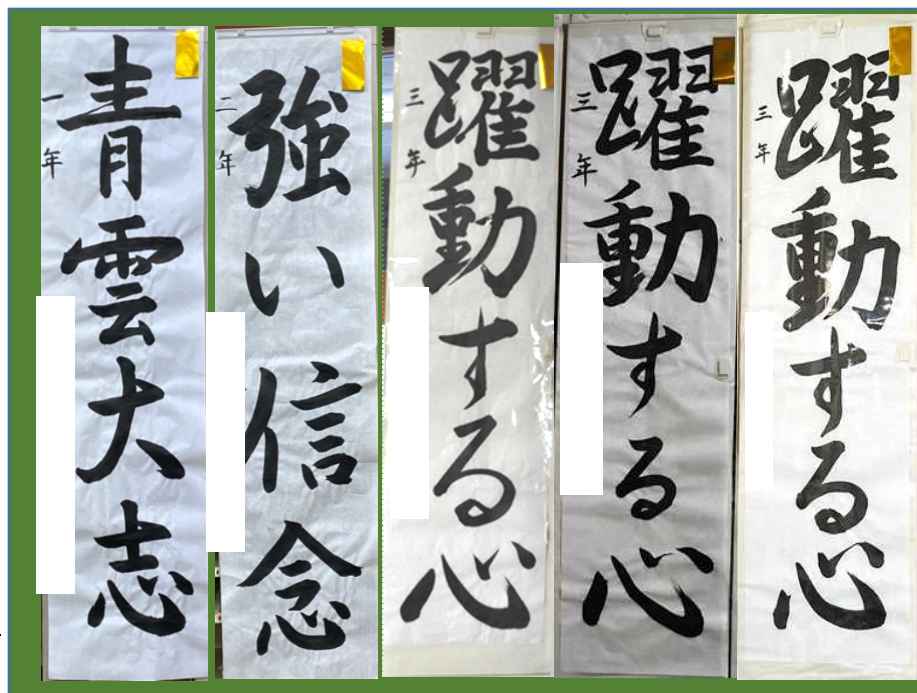
さて、この2月は3年生にとっては自分の進路と真正面から向き合う季節でした。すでに私立入試と都立入試を終えています。間もなく発表される都立入試の結果を受けて最終的に進路が決まる生徒も多いようです。私は3年生たち一人一人と面接練習をしてきましたので、進学先の高校で頑張りたいことや、その後の進路の方向性についても聞くことができました。生徒たちはその練習の中で、自分の頑張ってきたことや興味のあること、自身の特性などを通して高校志望の動機を語ってくれました。当たり前ですが、人それぞれ、十人十色の個性を感じました。

北京の冬季オリンピックが2月4日から20日まで開催されました。4年に一度の冬季オリンピックですから、選手たちは4年間、この時のためにひたすら練習を積み重ね、限界まで努力をしてきたはず。それは自分自身の精神力との戦いでもあります。新聞やテレビで、オリンピックに向けての選手の姿は頻りに放送され、競技にかける努力の軌跡はテレビの前の私たちにもある程度は紹介されてきました。しかし4年間という長い期間です。勝ちたいという気持ち、周囲の期待や思惑、国内での代表者決定の戦い、そして自身の生活のことや将来のこと…想像もつかない緊張感やプレッシャーがあったのではないのでしょうか。それは、一人の選手を押しつぶすほどの重さといってもよいと思うのです。それらを胸にしまって選手たちは一瞬の競技に挑みます。結果はもちろん大事ですが、4年間という長い試練を乗り越えてのオリンピック出場の価値はどれほど高いことでしょうか。

オリンピックを進路や学習と同列に論じることができませんが、様々な場所で、いろいろな形で、試練に立ち向かっているということは共通していると思います。そして地道な練習や学習の積み重ねを力として自分自身で試練を乗り越える喜びを味わったり、努力が報いられない挫折感に苦しんだりしながら、自分への自信や人への思いやりや謙虚さなど、人間として大切なたくさんのことを身につけて成長していくのだと思います。

全員の進路が決まるまで、周囲みんな、温かく見守っていきたいと思います。

校長 小杉 英夫



令和4年 書初展
金賞作品

《講評》

- どの作品も
- ・貫通力があり
- ・墨がたっぷり入り、
- ・のびやかで力強い

落合第二地区センターに、
2月28日(月)まで展示
されております。是非、ご
鑑賞ください。

黒澤先生、『障害者の生涯学習支援活動』 『文部科学大臣賞』に輝く!

文部科学省では、障害者の生涯を通じた多様な学習を支える活動を行う個人又は団体について、活動内容が他の模範と認められるものに対し、その功績をたたえ文部科学大臣表彰を行っております。今回の受賞は、黒澤先生が元同僚の先生たちと立ち上げた「日本ハンドサッカー協会」の長年の功績に対して贈られたものです。先生は、東京都の特別支援学校がつけられた障害のある人の特性に合わせたスポーツであるハンドサッカーの中心的存在です。肢体不自由児者及び重度重複障害児者を対象としたハンドサッカーを全国に広げるとともに、特別支援学校卒業生のスポーツ活動の推進を目的として活動してこられました。現在は、卒業生10チームの大会も開催しておられます。東京でオリンピック・パラリンピックが開かれた記念の年の受賞は、大変な喜びとなりました。本校では、毎年、パラリンピアの三宅さんをお招きして、「車いすバスケット」の講習を受けておりますが、様々なパラスポーツに触れる機会を、先生を中心に作っていければと考えています。

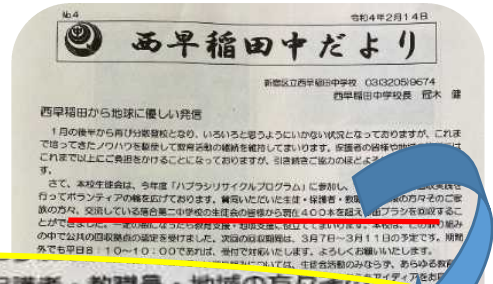


つながる区内中学校生徒会 =ハブラシサイクルプロジェクト=

分散登校中も、できる範囲で委員会活動は続いています。放送委員による『昼の放送』。少しでも皆を明るくしようと、音楽だけでなくクイズや心理テストで楽しませてくれています。給食委員による『手洗いの声掛け』や『献立の紹介』保健委員による『加湿器の管理』。美化委員会では、三役を中心に、『フラワーライン活動』の計画を進めています。しかし、『あいさつ運動』『図書で紹介』など、取組を中止せざるを得ない活動も多くあります。そのような中、西早稲田中学校の呼びかけで本校も参加したハブラシサイクルプロジェクトについて掲載された「学校だより」が届きました。冠木校長先生より、「本校生徒会のプログラムに落二中の生徒会の皆さんに賛同いただきありがとうございます。とのお言葉もいただきました。

学校を越えて、自分たちができる社会貢献ができたというのは、大きな実績です。一人一人の力は小さくとも、合わせると大きな力になるというボランティアマインドの実感につながりました。

生徒の皆さん、これからも、学校生活の改善や広く社会貢献にいたるまで、言わばグローバルな生活改善を求め、創意工夫しながら活動を進めていきましょう。こうした活動が活発に行われたのも、ご家庭、地域の皆様の応援があつてのことと感謝しています。今後ともご支援、よろしくお願いたします。



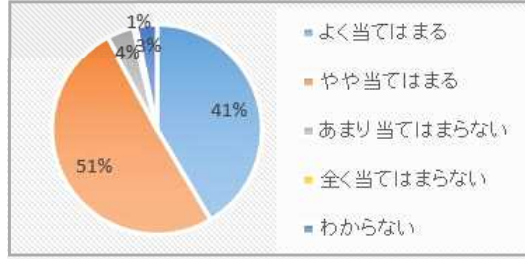
ボランティアの輪を広げております。賛同いただいた生徒・保護者・教職員・地域の方々とのつながり、交流している落合第二中学校の生徒会の皆様から現在400本を超える歯ブラシを回収することができました。一定の数になったら教育支援・地域支援に役立ててまいります。本校は、その取組が...

学校評価の集計結果について

今年度も、7月・12月と学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。

区の共通5項目「いじめについての相談ができるか」「授業のわかりやすさ」「タブレットの活用を始めたとしたGIGAスクール構想の推進」「家族とのかかわり」「地域とのかかわり」につきましては、いずれも区平均を上回り、特に授業のわかりやすさについては92%の肯定的なご意見をいただきました。コロナ禍で、年間行事の多くが縮小、中止になる中、生徒の頑張りと保護者、地域の皆様のご協力とご支援を受けて今年度の教育課程が肯定的なご意見を多くいただいた中で進んだことを成果と受け止め、家庭学習や地域とのつながりといった課題については来年、改善できるよう教職員一同、頑張っております。詳しい集計結果につきましては、ホームページに掲載いたします。ご確認よろしくお願いたします。

区共通項目2 「授業の分かりやすさ」



新型コロナウイルスの影響等により、お子様の事で不安等がありましたら、担任又は管理職にご連絡ください。
 問合せ先： 副校長 宇野 頼子 電話番号： 3565-0702